

日本 ASEAN 友好協力 50 周年 有識者会議 第一回研究会 議事要旨

1 日時：令和 4 年 6 月 6 日（月） 午後 5 時 00 分～7 時 30 分

2 場所：日本アセアンセンター・アセアンホール

3 出席者

（1）委員

遠藤 環	埼玉大学大学院 教授
大庭 三枝	神奈川大学 教授【座長】
梶原 将	東京工業大学 生命理工学院長・教授
清水 新一郎	日本・東京商工会議所 ASEAN・日本経済協議会(AJBC) 日本委員会委員
庄司 智孝	防衛研究所アジア・アフリカ研究室長
田中 秀幸	日本経済団体連合会 アジア・大洋州地域委員会 ASEAN 経済連携強化部会長
平子 裕志	経済同友会 国際交流委員会アジア PT 委員長

（オンライン参加）

相沢 伸広	九州大学 准教授
川島 真	東京大学大学院 教授
木場 紗綾	神戸市外国語大学 准教授
佐橋 亮	東京大学 准教授
田中 恵次	関西経済連合会 国際委員会アジアビジネス専門委員長

（2）事務局

加納 雄大	外務省南部アジア部長【事務局長】
石月 英雄	外務省南部アジア部参事官 ほか

（3）オブザーバー

関係各省庁

4 議事概要（委員の主な発言要旨）

（1）冒頭、座長より、第 1 回有識者会議の議論をもとに以下の論点が示された。

①日 ASEAN（及び ASEAN 諸国）関係のこれまでの変化を念頭に。経済から安全保障へ、幅広い分野での連携が進められ、いわば包括的に協力が進められている現状がある。

②主語は ASEAN を基本に、成長した ASEAN とどうつきあっていくかの視点が重要。

③お互いにとって望ましい新たな秩序構築を目指す日 ASEAN パートナース
ップ

④自由で開かれた経済秩序の維持、DX(デジタルトランスフォーメーション)、
先端技術、科学技術イノベーション等、共に発展するための日 ASEAN パート
ナーストップ

⑤気候変動、エネルギー、食料安全保障、福祉、格差縮小等、新たな課題に
取り組む日 ASEAN パートナーストップ

⑥次世代間の知的交流、相互連携強化

(2) 続いて事務局(外務省)から、最近の日本の対 ASEAN 諸国外交及び関連情
勢について、情報提供があった。

(3) 次に発表者(川島委員)から、「中国から見た ASEAN/東南アジア」につい
て発表がなされた。

- ・ ASEAN 地域において、中国の影響力は多くの分野で圧倒的。昨 2021 年 11 月
の中 ASEAN30 周年首脳会議での習近平演説では、東南アジアを「運命共同体」
として、様々な協力を提示。
- ・ 3-4 月には王毅外相が ASEAN 諸国を含む多くの外国要人と安徽省で会談し、
多数派工作を実施。米国に追随しない独立自主外交の重要性を強調。
- ・ 中国はワクチン協力にも注力。他にも小麦、天然ガス等の不足に伴う経済危
機を見据え、各国の事情に応じて支援。
- ・ 中国はアジア通貨危機以降に ASEAN に本腰を入れて関与。現在はお互いに最
大の貿易パートナー。単に連結性を高めるだけでなく、アリペイによる決済、
送金やキャッシュレスシステム等、様々な仕様や標準も入り込んでいる。鉄
道、道路網、パイプライン建設等、中国にとって東南アジアは大変重要な場
所。
- ・ 南シナ海は領土問題があるだけでなく、沿岸部に富が集中している中国にと
って物流のための重要なシーレーン。
- ・ 軍事面でも武器輸出、陸海空軍の研修等で ASEAN を支援。
- ・ 世論調査では東南アジアにおける対中感情は悪化。日本が中国に抜かれて 2
位になったという事よりも、パートナーを選ぶ質問で、日本の数字自体が落
ちていることの方が問題。
- ・ 中国は、A0IP について ASEAN が外部の圧力に対応しているだけと認識。
- ・ 中国の対外政策は国内でやっていることを国外でもやっていることが多い。
外交は「安全」と結び付けられている。かつては経済発展こそが外交目標だ

った。ASEAN は米軍基地がない地域としても重要。

- ・ 中国は多様なアクターが存在し多層的で北京と地方政府で対応が違うこともあり、ある意味で柔軟。
- ・ 中国は大国意識が強く、ASEAN ではなく、二国間での関係が中心。内政の影響を見ながら、経済を中心にした関係性の強化を目指している。
- ・ 青少年交流についても力を入れており、現地語を話す人材や中国語を話す ASEAN の青年層が増加し、以前のように現地華人のみでない。日本とは、規模が違うレベルで東南アジア言語人材が育成されている。
- ・ 東南アジアとの双方向性を踏まえ、中国がやっていないこともたくさんあるので、価値観の押し付けにならないようにして、日本が選ばれる存在になっていく、日本が東南アジアの主要な選択肢になることが大事。

(4) 続いて質疑応答、自由討論に移り、参加する委員から概要以下のような発言があった。

- ・ ASEAN での世論調査で、重要なパートナーとして中国に抜かれたことよりも、日本自体の評価が下がっていることが問題。日本が ASEAN にパートナーとして選ばれることが重要。
- ・ 東南アジアの目線が大事。経済支援で日本も他国と張り合うのか、張り合わないとしたら何に強みを見出すかが大事。世代交代に応じ、人材育成・交流を進める必要がある。
- ・ 中国はしたたかだが、ASEAN も中国をうまく利用している面あり。日本の側でも人材育成が必要。日本が ASEAN の役に立つ存在になる必要がある。
- ・ 現在の中国は経済発展より国内治安を含む安全を重視する傾向あり。一国で中国と量的に競争するのは困難。量より質で競るのも簡単ではない。チームで対応したり、地域や分野を絞って対応したりすることは考えられる。
- ・ 東南アジア言語の専門家含め人材不足は日本側の問題。日本における東南アジアの認知度を高め、すそ野の拡大と専門家の育成が重要。
- ・ ASEAN の学生は英語も堪能で日本語のできる学生も増えている。日本の学生は海外に行きたがらない傾向がある。日本に来る留学生への経済的支援はあるが、日本人学生が海外で学ぶための奨学金が少ない。
- ・ 対日世論調査では、日本の防衛協力や法制度整備支援などが ASEAN に認知されているのか、平和国家としての日本の評価も気になるところ。
- ・ 日本の魅力が急激に薄れてきている。人口減少、量的質的な人材の減少。観光と文化は日本の強み。

- ・ 中国は日本のやることを注視しており、ASEAN はじめ海外で評価の高い ODA や JICA の手法について学び、真似ている。医療・介護など中国にはできないことで先進的な課題解決を支援するのが日本の強みになり得る。
- ・ ソフトパワー、環境技術は日本の強み。環境問題や気候変動対策は食料安全保障につながる。再生可能エネルギーについても需要が高い。
- ・ ISEAS の世論調査報告では最も信頼できる国、観光に行きたい国では日本は 1 位のまま。その理由は何かを探り、ソフトパワーをどう活かすかが重要。
- ・ 日本が投資して現地で雇用を生む日本型の経営、道路・鉄道等のインフラ技術、製品の信頼性等、ビジネス上の日本に対する ASEAN の信頼はまだ厚く、期待されている。他方で DX では ASEAN が先行している。
- ・ 脱炭素に関わる技術はエネルギー安全保障にもつながる。グリーントランスフォーメーションも日本が輸出できる強み。
- ・ IPEF には ASEAN から 7 か国の参加が得られたが、日本はアジアの代弁者として期待に応えるべき。
- ・ 中国と対抗するのではなく、協力できる部分は協力しながら、したたかに ASEAN への影響力を広げていくべき。
- ・ 日本に対する「信頼」「ブランド力」は依然高い。交通ネットワーク、農業、環境、介護は強み。ある調査では「正しいことをする国」で日本が 57% のトップ。日本への信頼を元に草の根レベルでもファンを増やす。日本のアニメ・コンテンツ・文化は情操教育としても評価が高い。せっかく日本にあこがれて来日する「技能実習生」の待遇改善のため制度整備が必要。
- ・ 次の世代にどうつなげるか。そして、ASEAN 側の意思決定をしている層とどう繋がるか。日本は ASEAN との付き合いがうまくできておらず、点ではなく面で押さえる必要がある。
- ・ ASEAN において投資やソフト戦略で影響力を有する韓国とも同じ方向を向いて協力していけるのではないか。
- ・ 科学技術では、少し前までは ASEAN は日本からの技術移転を受ける側で、日本の先端研究のパートナーは欧米中心だったが、現在は先端的な実証研究などを ASEAN を含めたいろいろな国と組む方向にある。日本に留学に来る ASEAN の学生も増えており、日本社会の受け入れ体制の整備も必要。
- ・ 各国が直面する社会経済的な諸課題のどこまでが、日 ASEAN の共通課題として認識されうるか。対外的な緊張感の高まりと防衛費のエンドレスな増強が始まると、国内課題の解決のための諸資源の制約につながる可能性がある。

また、コロナ禍での大規模な財政発動を各国がしているが、財政基盤の弱い新興国では、今後危機が頻発するようなことがあれば、中長期的な社会的課題の解決の制約ともなり得る。住民の福利厚生 of 視点も必要。

- ・ 水と食料の自給自足は食料安全保障。共通の課題になり得る。
- ・ 日本の高校も大学ももっと現代アジアを教えるべきではないか。アジア経済／政治に関する講義を有する大学はまだ限定的。英国では経済系の横断的な科目のみならず、各地域の経済論が個別／体系的にある。また若い世代のネットワークもある。模擬国連のような日 ASEAN の学生の合同セミナーのようなものがあるといい。JASSO（日本学生支援機構）の奨学金だけでなく、民間の奨学金も活用できないか。

（了）